

第一研究部門 研究会員、登録会員の皆様
関係者の皆様

一般社団法人部落解放・人権研究所
代表理事 奥田 均
所長兼研究部長 谷川 雅彦
第一研究部門部門長 朝治 武

(一社)部落解放・人権研究所第一研究部門「部落差別の調査研究」 第6回公開講座のご案内

謹啓

皆様におかれましては、常日頃より部落問題の解決と人権確立にむけてご尽力頂いておりますことに、心より敬意を表します。

さて、第一研究部門(部落差別の調査研究)の第6回公開講座(第7回歴史研究会)を下記の要領で開催致しますので、ふるってご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

1. 日 時：5月16日(土)14:00～17:00
2. 場 所：大阪人権博物館3F研修室④
(大阪市浪速区浪速西3-6-36 電話06-6561-5891)
3. テー マ：「人種化プロセスの接点を探る～中世「河原者」「非人」・「ジプシー」・「ユダヤ人」をめぐる言説から」
4. 報 告 者：竹沢泰子さん(京都大学人文科学研究所教授)
5. 報 告 要 旨：
報告者は、従来の人種研究が奴隷制や先住民支配など自らの植民地経験に基づいた欧米中心のパラダイムであると批判してきた。日本やアジアにおける「血」をめぐる言説などによって人種化されてきた集団の経験が欠落しているのである。グローバルの運動レベルでは、部落民や在日コリアンやダリットなどの声が反映されているにもかかわらず、学術レベルではアジアにおいて人種研究者がほとんど存在しないがために、上記のような欧米中心のパラダイムが定説となったままなのである。
しかしこうした可視的な違いをもち、同一地域内で共存しながら、人種化されてきた、いわば「見えない人種」は、欧米などにも存在する。社会の分業化が一定程度進みながらも、近代の世界的影響を受けていない中世に目を向けると、日本の「河原者」「非人」、ルーマニアの「ジプシー」、スペインの「ユダヤ人」をめぐる言説に共通点が見受けられるように思われる。本報告はこれらの集団そのものを比較することが目的ではなく、何かしらの社会的状況下において、類似した構造的状態になり、類似した言説が生まれることに注目したい。人種主義がいかにかに生成されるのか、それを探る第一歩の取り組みである。
6. 参 加 費：1,000円(会員の方は無料)

※当文書は公印を省略しております。

※参加希望の方は、公開講座開催日の3日前までにFAX、電話、またはEメールにて参加される旨をお知らせ下さい。当日は大阪人権博物館の正面入口からお入り下さい。なお、入館料は研究所の方で支払います。

※公開講座に関するお問い合わせは第一研究部門事務局の松本まで。

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8F

TEL. 06-6581-8530/FAX. 06-6581-8540/E-mail matsumoto@blhrri.org

<会場周辺地図>



最寄駅：JR環状線「芦原橋駅」下車、南へ約600メートル
JR環状線・大和路線「今宮駅」下車、西へ約800メートル
南海汐見橋線「木津川駅」下車、東へ約300メートル